

令和5年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

令和6年2月5日作成

中期目標	重点努力目標(評価項目)	自己評価	学校関係者評価	達成状況と成果	学校関係者の意見・要望	今後の改善方針 次年度への課題 (★学校関係評価を受けて)
「魅力あふれる教育活動」を展開する	子ども主体の活動	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級担任が、日々細やかな指導を行うことができている。また、おたよりや連絡帳、電話等で保護者にお知らせや連絡を行うことで、保護者にも学校での学習の様子が理解されている。</li> <li>教師からの児童への声かけや「帰りの会」等での今日よかった人の発表などを通して自己肯定感が上がる工夫を行っている。</li> <li>わからないことを調べることについては、タブレットを使うことが浸透してきており、すぐに調べられることがふつうになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事ことで子どもたちの運営がすばらしく、感心している。</li> <li>いろいろな子がいろいろな経験をjして成長していくのはとても良いことだと思う。</li> <li>タブレットの活用は利点があると思うが、目的意識がないとぼんやりしてしまいそう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達段階をふまえ、子どもたちの手による活動ができるように教育活動を推進していく。</li> <li>わからないことを調べることについては、タブレットを使うことが浸透し、意識しないでも活用しているのjでポイントが上がっていないのjかもしれない。</li> <li>★調べるときに目的を明確にして調べるように意識付けを行っていくようにする。</li> </ul>
	読書好きの子の育成	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級担任が授業で図書室を使ったり、長期休業中に図書室の本を借りる機会をつくったりして、子どもたちの意識向上をはかっている。</li> <li>図書館準備ボランティアの方のおかげで、図書室は季節にあった飾り付けがされており、子どもたちに好評である。</li> <li>本を読むことが好きな児童が昨年よりも更に減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での図書室使用は良いと思う。子どもたちがより興味をもてる本があれば良いと思う。</li> <li>登校時の地域のボランティアの方への挨拶がもう少しできるようになってほしいと思う。</li> <li>挨拶は、個人差があると思うが、自然とできるようになるのが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書の充実等、計画的に本を読む習慣をつけていきたい。</li> <li>授業で図書室を活用する時間を更に増やし、本に親しむ機会をより多く設定していく。</li> </ul>
	あいさつ・感謝のこじはの習慣化	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のあいさつ運動では、元氣よくあいさつしている児童も多くなる。</li> <li>「おはようございます」や「さようなら」のあいさつができる子とできない子に差がある面もある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>★あいさつについて意識付けを継続して行うようにしていきたい。</li> </ul>
子どもの「生きる力」を育む	基礎基本の定着と関わり合い	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字コンクール、計算コンクールを設定することで、基礎学力を定着していくための機会になっている。</li> <li>「聞くこと」については、昨年一昨年同様jにできていてと感じている児童の割合が高い。</li> <li>「発言」については、教師と子どもにずれがある。みんなの前での発言に苦手意識をもっている子どももいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力は向上していると感じる。</li> <li>発言は、児童の意識が低いのが気になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの主体的な学習活動が引き続き行えるように、子どもが主体的に学ぶ学習活動の改善を行っていく。</li> <li>「聞くこと」については、引き続き丁寧な指導を行っていく。</li> <li>「発言」については、自分の思いが言える雰囲気がある学級経営を心がけていく。また、「お話タイム」を大切に、発言の基礎を引き続き定着させていく。そして、話すことと聞くことの楽しさ、さらには話し合うことで深まる楽しさを実感させていく。話したいと思えるまでに、教師や友だちとの対話を深めたり、自己の学びや学習を充実させたりしていく。</li> </ul>
	良好な人間関係	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>黙って掃除に真剣に取り組んでいる子の割合は、昨年よりも上がっている。委員会活動で積極的に呼びかけを行った成果だと思う。</li> <li>学校生活が楽しいと答える子どもの割合がやや低い。一人一役の係活動など、子どもたちの自己肯定感を高める活動を行っているが、更に日常生活の充実を図る必要性を感じている。</li> <li>縦割活動を月1回ほど実施している。6年生が中心となって活動しており、毎回楽しそうに過ごしている様子が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係の向上に縦割り活動は有効だと思う。</li> <li>通学路の安全には、校区でも力を入れていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き委員会活動で黙勤清掃についてキャンペーンを行い、意識向上を図る。</li> <li>子どもたちの居場所づくりや自己肯定感を高めるための学級経営について研修の機会を設ける。</li> </ul>
	健全な体づくりと子どもの安全意識の高揚	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いのちの集い」では、講師の方の体験談を聞き、いのちの大切さについて、しっかりと考えることができた。</li> <li>「安全の誓い」を唱和することで安全について意識することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校の小さなトラブルに、すぐに対応していただき助かっている。</li> <li>いのちの大切さについて考えると同時に、「仲間を大切に」「いじめはいけな」などのことも常に伝えていくことが大切だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★引き続き、計画的に縦割活動を実施していく。活動内容については、縦割班によって差があるので、担当教員と6年生とでよりよいものになるように検討していく。</li> <li>保護者の参加が少なかったのは、残念であった。内容によっては、授業参観日と同じ日に実施することもよいかと思った。</li> <li>通学団での登下校でトラブルにならないよう、申し出があった場合は速やかに対応する。</li> <li>★通学団会や集会で、通学路の安全について具体的に話をする。</li> </ul>
信頼される教師集団を育てる	教職員の指導力・授業力向上	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業研究会を2回設けた。どの授業も子どもたちの思考の流れや思いを大切にしたい問題解決的なもので、多くのことを学ぶj研修であった。</li> <li>それぞれの児童の特性や困り感を把握するとともに、生活サポート委員会等jで共通理解を図り、個に応じた支援を心がけている。</li> <li>月1回の「生活アンケート」から1人1人の子どもの様子を細かく読み取り、個の支援や生活指導に役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が相談できる環境づくりは大切だと思う。</li> <li>月1回の「生活アンケート」ははじめの早期発見にはとても重要だと思うので、これからも続けてほしい。</li> </ul>	
	多忙化解消と業務改善	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導や生徒指導等に全職員の共通理解の元、取り組みことで、指導の合理化と質の向上を図ることができた。</li> <li>行事を終えると必ずアンケートを取り、改善点の確認をしているので、次年度に反省を生かすことができた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き学習指導や生徒指導に全校体制で取り組む。</li> <li>行事に関しては、ねらいを明確にするとともに、実施時期等の変更も検討していく。</li> </ul>
家庭・地域と連携する教育活動を推進する	学校からの情報発信	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりを校区回覧することで保護者だけでなく、地域の方にも学校の様子がわかるように努めた。</li> <li>ホームページの「活動の記録」に、日々の活動をできる限りアップするように努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちや保護者が校区の活動に積極的に参加してくれ、ありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページや学校だより学年通信等、引き続き学校からの情報発信に努める。</li> <li>保護者や地域の方が参観できる行事を検討し、顔を合わせることで保護者、地域方との距離を縮めていきたい。</li> </ul>
	地域の教育力・教育資源の活用	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と一緒の活動ができるようになってきたので、現状の教育活動と照らし合わせ、校区探検や米作り、地域の方のお話等を再開し、学びを深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の力を授業等で更に活用してほしい。地域を愛する子どもたちの育成に努めてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★学習支援ボランティアの活用や地域の人的資源を探り、さらに地域との連携を深めていきたい。</li> <li>家庭学習については、基礎学力の定着を含めて保護者との連携を図り、学年・学級だより等で情報を発信していく。</li> </ul>

【自己評価】 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価

【関係者評価】 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない